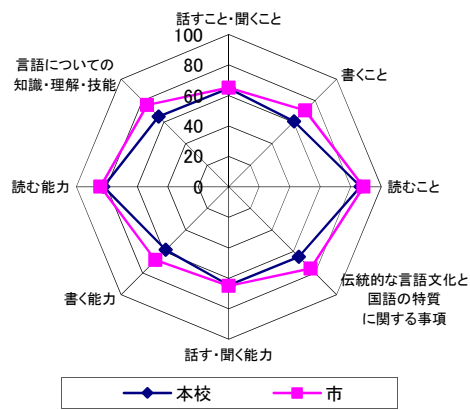


宇都宮市立富屋小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	64.5	65.0	62.9
	書くこと	60.7	70.9	71.3
	読むこと	86.4	88.4	87.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	65.1	75.8	75.3
観点別	話す・聞く能力	64.5	65.0	62.9
	書く能力	58.5	68.0	68.0
	読む能力	82.3	84.2	82.8
	言語についての知識・理解・技能	65.1	75.9	75.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

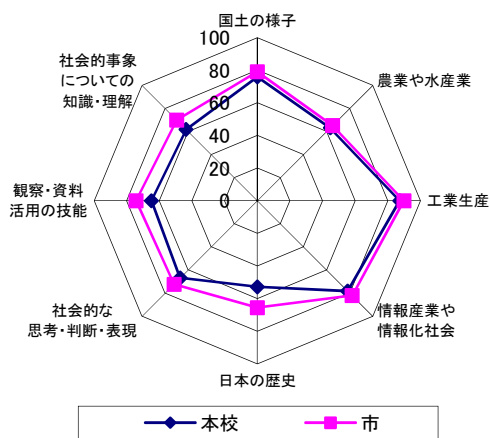
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	領域の平均正答率は、市の平均とほぼ同じであった。 ○「話し手の意図を考えながら、話合いの内容を聞くこと」については、市の平均とほぼ同じであった。 ●「司会者の役割を理解して、計画的に話し合おうとすること」については、市の平均とほぼ同じであったが、正答率が低かった。授業の中でグループでの話合い活動を取り入れてきたが、今後も工夫した手立てが必要である。	・話合い活動の中で、意見を聞き取ることはできているが、聞き取った内容を受けて、自分で考え、適切に話す力は不十分である。意見を聞くだけでなく、その意見を受けて自分の意見を述べたり、司会者として話合いを進めていったりする活動を取り入れる。
書くこと	領域の平均正答率は、市の平均を下回った。 ○「資料の内容を読み取って、文章に書き表す内容を理解することができる。」については、市の平均をやや上回った。 ●「指定された長さで文章を書くこと」「2段落に分けて文章を書くこと」など、要求された形で文章を書くことについては、市の平均を大きく下回った。各教科において「書く」活動を取り入れて、「書く」ことへの抵抗感を払拭している段階であるため、今後も大きな課題である。	・資料から情報を読み取り、書く内容を理解することはできるが、実際に文章を書くことに課題がある。限られた時間の中である程度長い文章を書く活動を取り入れ、根気強く取り組むよう支援していく。
読むこと	領域の平均正答率は市の平均をやや下回った。 ○物語の読み取りについては、どの設問も市の平均とほぼ同じだった。 ●説明文の読み取りの活用問題については、市の平均を下回った。物語の読み取りを重視してきたため、説明的文章の読み取りの力がまだ十分ではなかった。	・場面描写や登場人物の心情を読み取る内容を重視してきたが、その効果は表れているようである。今後は、説明的文章で複雑な構造をした文章の読み取りなどに挑戦させていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	領域の平均正答率は市の平均を下回った。 ○「漢字を読む」については、市の平均を半数が下回り、半数が同じだった。 ●「漢字を書く」ことについては、すべての設問で市の平均を下回った。新出漢字の習得、定着するまでの練習時間が十分にとれなかった結果と言える。 ●「文章の構成(述語)」について理解している」については、市の平均を大きく下回った。文章構成についての理解を深める支援が必要である。	・漢字練習を重ね、漢字を読むことにおいては力が定着しつつある状況にあるが、5年生で学習した漢字の書きを忘れていく様子が見える。今後も継続して取り組んでいきたい。 ・文章の構成について、改めて復習する機会を設け、理解を深めさせたい。

宇都宮市立富屋小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	75.9	79.1	74.9
	農業や水産業	63.1	65.1	63.7
	工業生産	87.2	89.7	86.2
	情報産業や情報化社会	78.2	82.2	73.1
	日本の歴史	52.8	65.4	65.6
観点別	社会的な思考・判断・表現	66.8	72.2	69.0
	観察・資料活用の技能	64.9	74.3	69.2
	社会的事象についての知識・理解	61.8	69.9	69.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

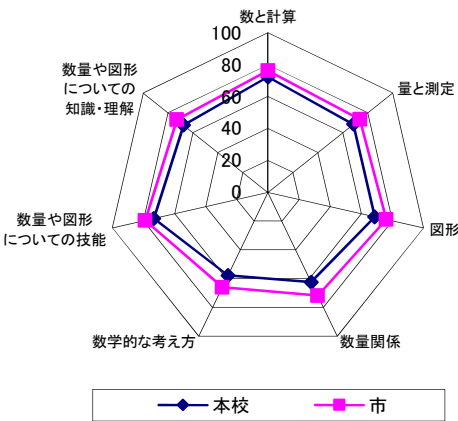
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	領域の平均正答率は、市の平均をやや下回った。 ○「日本の国土」や「防災意識」については、市の平均正答率をやや上回った。 ●「日本の周辺の海洋名」や「森林資源」についての正答率が低く、地図や資料を活用することに課題が見られる。	・日本の国土について、名称だけでなく、公害や災害、地理的位置関係や資源について基礎的事項の復習を行い、理解を深めさせていく。
農業や水産業	領域の平均正答率は、市の平均を下回った。 ○「米作りの作業」についての正答率は、市の平均より10ポイント高かった。5学年時に行った「米作り」の体験が生きた学習となった。 ●「日本が食料自給率と輸入額について、資料を読み取って考えること」について、正答率が低く、市の平均を下回った。資料を読み取る、資料を活用して考察する等の力が不十分であった。	・5学年の学習内容であるが、農業や水産業についての理解が十分とは言えない。日本の食糧生産や世界との関係などについて更に理解を深めることができるよう、プリント等で復習をさせたり、家庭学習を推奨して定着を図ったりして学習内容の定着を図りたい。
工業生産	領域の平均正答率は市の平均を下回った。 ○「優れた製品を生産するための工夫や努力について資料を読み取り考える」設問は、市の平均正答率とほぼ同等であった。 ●「工業製品の種類」についての設問の正答率が低かった。工業生産についての知識・理解の定着が十分ではなかった。	・日本の工業生産や世界との関係などについて更に理解を深めることができるよう、チャレンジ学習や自主学習の時間を活用して復習させる。
情報産業や情報化社会	領域の平均正答率は市の平均を下回った。 ○「マスメディアの種類」については、正答率が高く、市の平均を上回った。 ●医療の情報ネットワークについて資料を読み取って考える設問では、市の平均を下回った。授業の中で資料を読み取る活動を取り入れてきたが、活用には至らなかった。	・現代の情報化社会において、情報やネットワークについて正しく理解することは必要である。社会科の復習だけでなく、総合的な学習の時間、道徳など機会を捉えて情報や情報の読み取りについて考える活動を取り入れて、情報社会のモラルについての理解も深めていく。
日本の歴史	領域の平均正答率は市の平均を大きく下回った。 ●どの時代においても「知識・理解」の観点の設問の正答率が低かった。朝の学習や宿題のプリント学習を反復復習することで、基礎的・基本的学習内容の定着を図る必要がある。 ●明治・大正時代の歴史の流れや政治について、市の平均を下回り、正答率も低かった。	・文明開化と富国強兵などの混同がうかがえる。明治時代からの日本の近代化の流れについて外国との関わりも含めて再度確認し、復習させたい。 ・すべての年代において、重要な事柄を再度確認し、基礎的・基本的内容の確実な定着を図る。

宇都宮市立富屋小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	72.4	76.2	72.9
	量と測定	68.5	73.6	70.6
	図形	68.6	76.0	72.1
	数量関係	62.4	71.8	66.9
観点別	数学的な考え方	57.8	65.9	58.0
	数量や図形についての技能	73.3	78.9	76.2
	数量や図形についての知識・理解	67.7	73.1	70.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

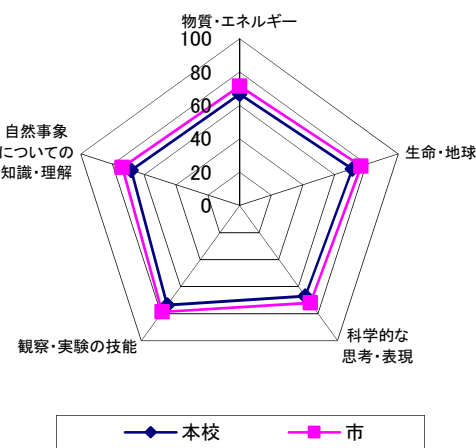
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	領域の平均正答率は市の平均をやや下回った。 ○分数の計算や整数の奇数・偶数の類別については市の平均正答率を上回った。学校課題に基礎基本の充実を掲げ、朝の学習や宿題のプリント学習で取り組んできた成果と言える。 ●「小数の除法の文章問題を図に表すこと」や「図を使って文章に合った式を選ぶこと」について、市の平均正答率を下回った。	・計算の基礎・基本は身に付いてきているが、まだ十分とは言えない。今後は、小数や分数の計算を中心に練習問題の量を増やし、確実な定着をめざす。 ・計算の機械的なやり方を学習するだけでなく、式の意味やなぜそうなるのかを考えたり、図で表したりすることで、思考力の育成を図る。
量と測定	領域の平均正答率は市の平均を下回った。 ○「直方体の体積を求めること」について、市の平均正答率を上回った。 ●「速さをもとに時間を求めること」や「教室1㎡あたりの人数を求める式を選ぶこと」について、市の平均を下回り、正答率も低かった。問題文の意味を的確に捉えて、思考し立式する力を育成することを課題として学校全体で取り組んでいるが、まだ不十分である。	・面積や体積を求める問題について、縦や横、底辺や底面、高さなどの関係を的確につかみ、正しく立式するように復習する活動を取り入れる。 ・時速の求め方や、速さと時間から道のりを求める問題についても、単位換算がある内容について取り組ませることが必要である。繰り返し学習させて、確実に身に付けさせたい。
図形	領域の平均正答率は市の平均を下回った。 ○合同な三角形を作図する問題について、市の平均とほぼ同じだった。 ●「内角の和を求める式を選ぶこと」や「線対称な図形の対応する軸を見つけること」について、市の平均正答率を下回った。基礎的・基本的学習事項の定着を徹底する必要がある。	・多角形について、三角形を基にした構成を確かめ、基礎的・基本的事項の復習を重点的に行う。 ・授業の中で線対称と点対称についての基本的事項を再確認し、理解を深めさせる。さらに、教室に掲示物を貼って普段の生活の中でも復習させて、図形の知識を確実に定着させる。
数量関係	領域の平均正答率は市の平均を大きく下回った。 ○「倍数の考え方を利用して球根の位置を求める」設問について、市の平均を上回った。 ●文字を使った式や割合、比の考え方を使って答えを求めたり、判断理由を説明したりする問題については、市の平均を大きく下回り、正答率も低かった。授業の中で、自分の考えを相手に伝えるような場を意識的に設定していく必要がある。	・割合と比の基礎的な内容の復習を行うだけでなく、記述式問題などの活用問題を扱い、いろいろな側面から解法を考えていく活動を多く取り入れ、数学的思考力を伸ばしていきたい。

宇都宮市立富屋小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	66.8	71.6	67.4
	生命・地球	71.1	76.6	75.5
観点別	科学的な思考・表現	67.0	72.1	68.8
	観察・実験の技能	73.7	78.7	76.3
	自然事象についての知識・理解	68.2	73.9	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	領域の平均正答率は市の平均を下回った。 ○「酸素の捕集法」や「振り子のきまり」、「人の誕生」については、市の平均を上回り、平均正答率も高かった。 ●「物のとけ方」「水溶液」「電流」の問題については基礎的内容での誤答が多く、学習内容の理解が十分とは言えない。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・6年間の総まとめとして、各学年で学習した内容を再度復習させ、科学的な思考・表現と自然事象についての知識・理解に関する内容を重点的に指導して、基礎的内容の定着を図りたい。
生命・地球	領域の平均正答率は市の平均を下回った。 ○「植物のつくりとはたらき」については、市の平均正答率とほぼ同等であった。 ●「月と太陽」「動物のからだのつくりとはたらき」については、市の平均正答率を下回った。基礎的な事柄をもとに考察する力の育成が必要である。	・6年間の総まとめとして、各学年で学習した内容を再度復習させ、知識・理解に関する内容の定着を図るとともに、意図的に考察する活動を取り入れ、科学的思考力の育成に努める。